

姫路市での 思春期出前授業の取り組み

姫路市こどもの未来健康支援センター
大塩 美智子



姫路市の概況

中核市（保健所設置市）

兵庫県の南西部、
播磨平野の中央に位置している

面積 534.35km²

【令和3年9月30日現在】

人口 520,149人

高齢化率 27.3%

【令和3年次】

出生数 3,860人

出生率 7.3（国6.6）

合計特殊出生率 1.48（国1.30）



姫路市の概要

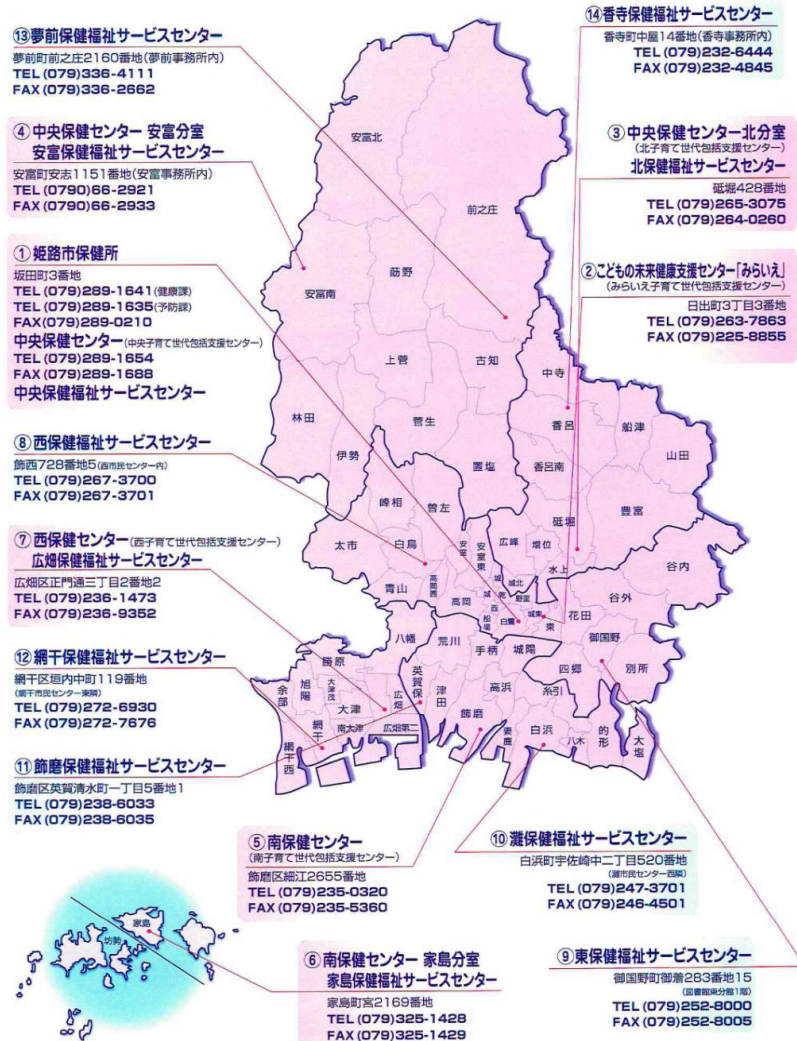
1 保健所

こどもの未来
健康支援センター

3 保健センター
3 分室

12 保健福祉
サービスセンター

地区分担制



出前授業に取り組んだ経緯

思春期世代の健康課題

10代の予期しない妊娠
10代の性感染症

問題の顕在化

問題に対し、関係機関(教育機関・保健行政)が
個々のアプローチになっている

各関係機関の横のつながりの弱さ

問題が起こってからの後追いの関わり

予防的に関与するには、

教育現場と保健行政の一体的な取り組みが必要

思春期保健担当者連絡会議

設置に向けて **教育委員会へ打診**

- ・問題の共有
- ・市として一体的に取り組む必要性

平成22年(2010年)に設置

+

- ・HPVワクチンの定期接種の導入

子どもたちへの性に関する教育
HPVワクチンの接種
子宮がん検診の推進



チャンス

思春期保健担当者連絡会議

目的 思春期における子どもたちを支援するネットワークづくりを行う中で横の連携を強化し、必要な対策を市全体で検討する

メンバー 教育委員会、小中学校の性教育担当教諭、小中学校の養護教諭、医療機関助産師、保健所

内容 年間3回開催
思春期保健の課題や取り組み方策の検討
支援者向けの講演会の開催



思春期の子どもたちの理想の(目指すべき)姿

思春期の子どもたちが自尊心を持ち、
自分を大切にできる。
まわりの人も大切にできる。

正しい
知識をもつ

困った時に
相談できる

自分で考え行動できる
(予防行動がとれる)

自分や周りの人を大切にする

予期しない妊娠や
性感染症
人工妊娠中絶を
減らす！

目指すべき姿を達成するための条件 (基本指針)

- ①正しい知識をもつ
(子どもたちが、保護者が、地域の人たちが、関係機関が)
- ②コミュニケーション能力の向上(子どもたちが)
- ③困ったときに相談できる(子どもたちが、保護者が)
- ④関係機関が連携できる(関係機関が)
- ⑤ライフスキル能力の向上(子どもたちが)
- ⑥思春期の子どもたちを支える人・機関の支援
(支援者支援)

出前授業の開始に向けて

H22.12月 教育委員会へ性教育の実施について依頼、承諾を得る

H23. 1月 中学校校長会にて出前授業の実施依頼

2月 授業内容の均一化を図るため、性教育媒体作成チームで授業の内容やシナリオ、また共通して使用できる媒体を作成

各中学校に実施要領と実施時期の調査票配布

3月 養護教諭研究会にて出前授業の説明

4月 保健師のスキルアップを図るため、助産師による職員研修を開催

5月 中学校性教育担当者会にて出前授業の説明

教育委員会依頼時の工夫

- 思春期保健担当者連絡会議の設置
- 様々な思春期の課題について
タイムリーに対応することの重要性
- 一部の学校での試行的実施ではなく
全校での実施が望ましいことを説明
- 理解が得られるよう実施への協力を
繰り返し依頼

出前授業実施時の工夫

- 「保健師が学校で実施すること」に重点を置く
- 各学校の希望を十分に授業内容に反映

出前授業の実施に十分な理解を得られない状況

まず、実施することにより教育現場から
徐々に信頼を得られるように

- 各学校の生徒の実情に合わせた内容に調整
- 担当教諭の意見を取り入れ協議を重ねる

信頼を得るに至っている

思春期出前授業の概要

平成23年度(2011年度)開始

目的

健康や性行動、性感染症について正しい知識を身につけるとともに健全な自尊心、自分を大切にすることを育てる

対象 市内すべての中学校(特別支援学校含む)
1年生 及び 3年生

実施者 保健師が各中学校に出向いて授業

各学年の授業の目的・内容

	目的	内容
1年生	こころとからだの変化を理解し、自分を大切にすることができる	こころとからだの変化 命のつながり 自分を大切にすること 悩んだ時の対処のしかた
3年生	健康や性行動、性感染症について正しい知識を身につける	性感染症・予期しない妊娠について (予防方法) 自己決定について

授業形式：学年単位

50分授業（学校の希望により調整）

出前授業について（事前共有）

授業内容の事前打合せ

- ・学校の担当教諭と保健師が詳細に打合せ
- ・言葉や資料等の表現の確認
- ・学校の希望や生徒の様子を反映させた内容

生徒に配布するリーフレット→



出前授業の様子



出前授業について（実施後）

授業後

- 授業についての生徒へアンケート実施
- 学校（担当教諭等）へアンケート実施

アンケート結果まとめ、フィードバック

- 出前授業実施学校へ
- 教育委員会、思春期保健担当者連絡会議へ共有し、意見を踏まえて翌年度の授業に反映

出前授業の実績

年度	1年生		3年生		その他 (特別支援学校等)		計	
	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数
R1	37	4,647	38	4,816	8	473	83	9,936
R2	32	3,906	26	2,541	7	189	65	6,636
R3	37	4,642	35	4,549	10	1,526	79	10,717
R4	38	4,717	37	4,635	12	768	87	10,120

出前授業の成果

性感染症、中絶、出産の状況

年次	10代クラミジア 感染者数 (件)	10代 人工 妊娠中絶数 (千人対)	10代の 出産数(件)
H20	35	11.8	104
H23	21	9.3	96
H27	24	6.0	68
R1	13	4.7	56
R3	19	3.9	32

授業の波及効果

- ・出前授業の前後に補足授業を行うなど独自で取り組んでいる学校の増加

性教育の取り組みの必要性を
再認識するきっかけになっている

- ・教育委員会作成の『性教育指導の手引き』に思春期出前授業が位置づけされる

出前授業が定着

- ・保健師のスキルアップや意識の向上

思春期保健の今後の取り組み

思春期出前授業と
思春期保健担当者連絡会議における
ネットワークづくりの **両輪での取り組み** 重要

- ・学校の中において出前授業が他授業とつながりがもてるものへ
- ・子どもたちに関わる支援者に対する支援
- ・保護者・地域に対するアプローチ

こどもの未来健康支援センターの立ち上げ

こどもの未来健康支援センター

令和5年4月に開設

思春期保健・母子保健の包括的な支援拠点

目指すもの

成育過程にある者およびその保護者並びに妊産婦が安心して生み育てられるように、思春期・妊娠期・子育て期において切れ目のない支援を受けることができるよう、より専門性を備えた思春期保健と母子保健の包括的支援を行い、次代の社会を担う成育過程にある者が健やかに育つ社会の実現を目指す



コンセプトおよび機能

コンセプト

つどう 交流 学びあう 支えあう

機能

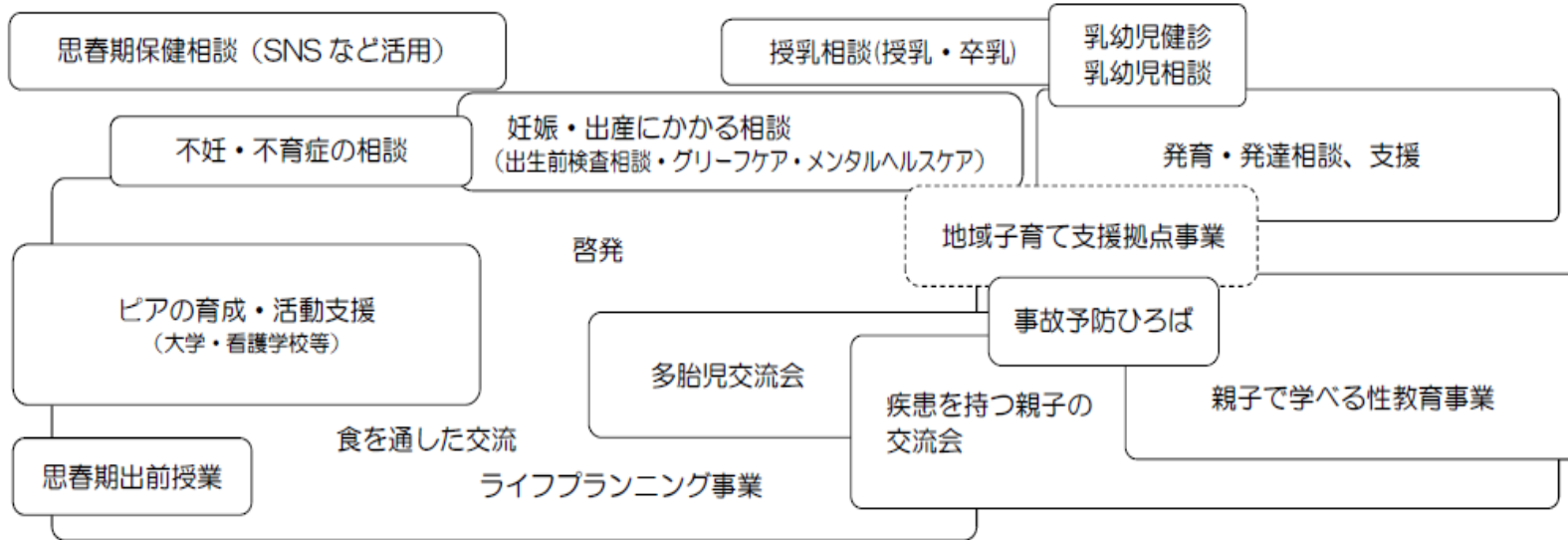
サービス

相談

交流

学びあう

コーディネート



保健師・助産師・栄養士・歯科衛生士・保育士・精神保健福祉相談員等による専門チームの設置
 → 支援困難ケース等の支援、関係機関（保健センター、保育所、学校等）への支援、関係機関のネットワークづくり

サービス提供

相談

- ・ 妊娠・出産にまつわる相談
- ・ 子どもの発達相談
- ・ 子育ての相談
- ・ 思春期の健康相談 等

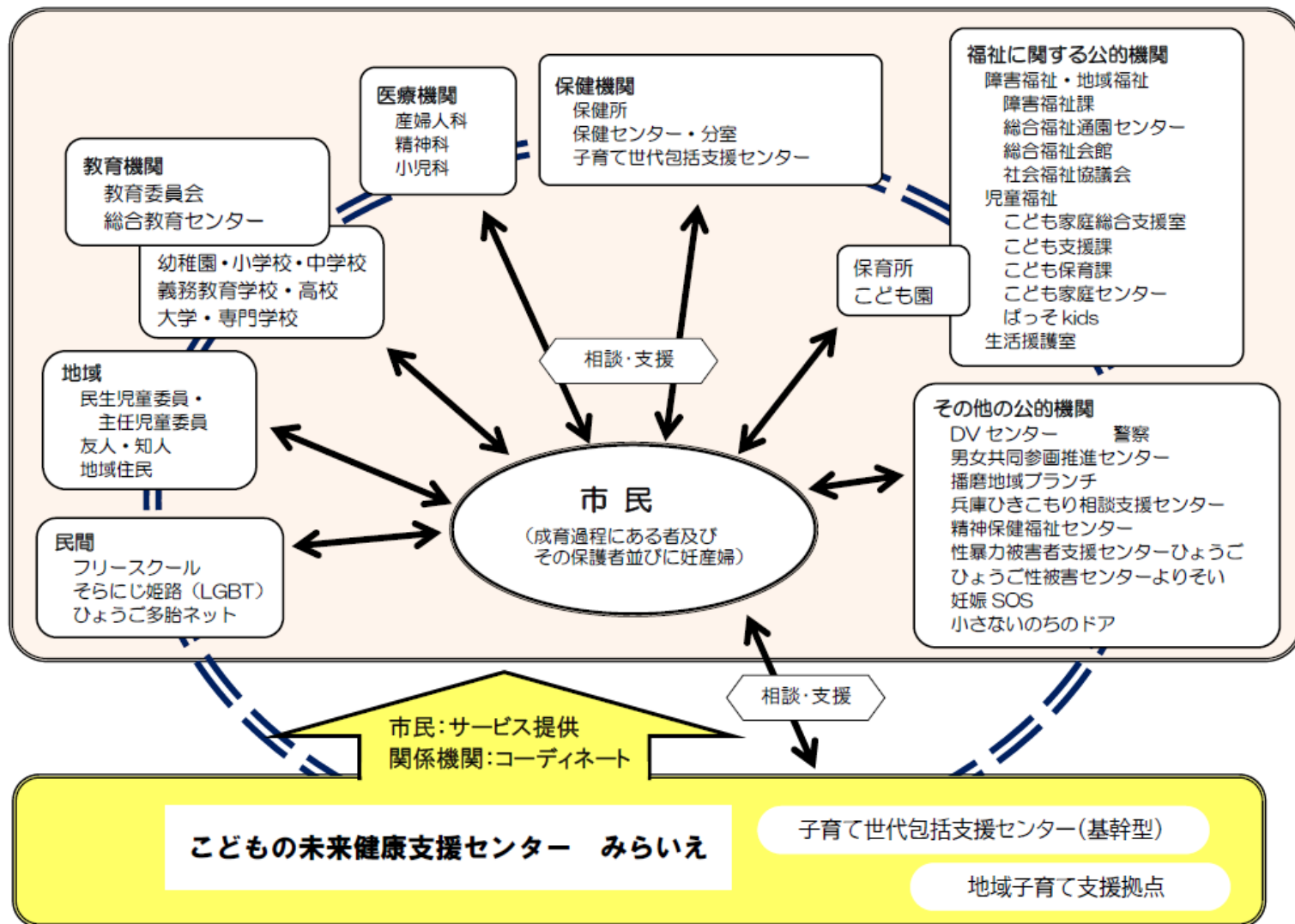
交流

- ・ 多胎児の交流会、
- ・ 思春期や子育て期等の世代間交流 等

学びあう

- ・ 子育て、性教育に関する講演会
- ・ 子どもの事故予防体験ひろば
- ・ プレコンセプションケアに関する展示
- ・ ライフプランニング事業

コーディネート



思春期保健相談

性に関すること、LGBTQなど

思春期保健啓発事業（R5～）

乳幼児期から学べる性教育

子どもの年齢に応じた保護者向け性教育

性教育教材の展示

絵本・本（思春期世代向け、保護者向け等）

胎児モデル等の媒体



プレコンセプションケア（R5～）

若い世代の男女に将来の
妊娠のための健康管理を提供する
（ライフプランニング事業と併せて実施）

専門相談（R5～）

不妊・不育症、予期しない妊娠、
出生前検査、流産・死産のグリーフケア

発育発達相談事業

心理相談、発育発達相談



ご清聴ありがとうございました。

